

Ship & Ocean Project

船舶・艦艇事業本部

培ってきた造船技術と
グループ総合力で、
海洋という新たな事業領域を
切り拓いていきます。

取締役 常務執行役員
船舶・艦艇事業本部長
福田 典久



中長期的発展に向けたアクションプラン

01.省エネ・環境対応技術による差別化

- ①エコシップのラインナップ拡充 (neo66BC、neo56BC、neo60BCに加えてケープサイズBC、VLCCまで)
- ②液化天然ガス (LNG) やエタン等の輸送用中規模のマルチガスキャリアneo82GCの開発

02.海洋開発分野の拡大・強化

- ①浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備 (FPSO) 船体部・海洋支援船の受注・建造
- ②三井海洋開発 (株) との連携強化

03.生産能力の強化に向けた攻めの設備投資

- ①玉野艦船工場の整流化推進によるコスト競争力向上
- ②千葉造船工場にクレーン設置し、海洋案件への対応力向上

Action

事業環境と実績

省エネ船の強みを活かし、一般商船でベースロードを確保

海運市況は、ここ数年間の新造船の大量竣工によって依然として余剰船腹を抱えており、特にドライバルク部門において用船料は低い水準にあります。また、新造船マーケットにおいても、用船料低迷を受けて発注意欲は減退し、具体的な引き合いに至る商談は僅かという状況にあります。海洋開発関係では、原油価格の下落により海洋油田・ガス田開発プロジェクトが減速しているところに、ブラジル国営石油会社のスキャンダルもあり、韓国大手も海洋案件の受注が減るなど先行きの不透明感が増えています。

上記の状況にあたって当社は、省エネ・環境対応技術を取り入れた新型バルクキャリア (ばら積み貨物運搬船) 4種を既に開発・市場投入し、これまでに省エネ船の累計受注数は58隻となり、約2年分の手持ち工事を確保しています。また、一昨年11月に省エネ船の1番船を引き渡して以来、66,000重量トン型及び56,000重量トン型バルクキャリア16隻を順調に建造・引き渡しており、今後も省エネ船の先行ヤードとしての強みを活かして一般商船でベースロードを確保してまいります。

また海洋案件では、千葉事業所で建造したブラジル向け浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備 (FPSO) 新造船体を本年2月、三井海洋開発 (株) に引き渡しました。船体建造では苦労はしましたが、プラクティカルな経験値を得たことで、海洋分野の技術・知見が蓄積されました。

2014年度の業績

円安の効果もあり売上増

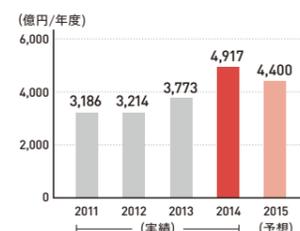
受注高は、省エネ型バルクキャリアを21隻受注したほか、FPSOの大型プロジェクトを受注しましたが、前期と比べ1,315億57百万円減少 (△19.4%) の5,478億53百万円となりました。売上高は、FPSOの建造工事が順調に進捗したことに加えて円安の効果もあり、前期と比べ1,144億71百万円増加 (+30.3%) の4,917億39百万円となりました。営業利益は、売上増に伴う増益もありましたが低船価船の工事が集中したことなどにより、2億68百万円増加 (+2.7%) の101億77百万円となりました。

財務ハイライト

受注高



売上高



営業利益



Future

一般商船

高い信頼性に省エネ性能を加え、確固たる地位を築く

当社のエコシップは、160隻を超える引き渡し実績を持つ56,000トン型ハンディマックス・バルクキャリア (三井56BC) の高い信頼性を踏襲しながら、電子制御式ガスインジェクションディーゼルエンジン (ME-GI) の採用や船体形状の最適化により推進効率と低燃費性能を大幅に高めることに成功しています。

ハンディマックス・バルクキャリアについては、幅広い顧客のニーズに対応すべく、一昨年までに ①「新規市場の開拓を目指したneo66BC」、②「既存市場に対応したneo56BC」、③「成長市場を見据えたneo60BC」の3船型のラインナップを取り揃え、各船型とも受注を伸ばしています。neoシリーズの優れた省エネ性能と高い信頼性をコアとして、ケープサイズバルクキャリアや超大型タンカー (VLCC) にもラインナップを拡充しています。

また、クリーンエネルギーへの関心が世界的に高まっています。液化天然ガス (LNG) やシェールガスの副産物であるエタン等の海上輸送を念頭に置いた、新たな中規模汎用ガス運搬船「neo82GC」のプロトタイプを開発を完了しました。さらに、今後設計への影響が大きい新規則の発効が予定されており、これら新規則への対応準備を前広に進めるとともに、マーケットの要望を機敏に捉えてこれら新規則に対応した新船型の開発を順次進めていきます。

海洋開発分野

三井造船グループとして競争力を強化

海洋セクターは原油安により先行き不透明感が強まっていますが、中長期的には拡大基調にあります。三井海洋開発 (株) では、これまでの実績を活かして受注件数の確保と収益力の向上を進めており、当社としても三井海洋開発 (株) との戦略的協業を加速してこの取り組みを全力でバックアップし、三井造船グループとして海洋開発分野での成長を目指していきます。2015年2月には三井海洋開発 (株) 向けの最新FPSO船体を引き渡しました。このFPSO船体は中古タンカーの改造が主流のFPSOに対して、耐久性に優れた新造船体を短納期で供給し、三井海洋開発 (株) のFPSOビジネスに新造オプションを追加するものでした。今回の設計・建造で得られた貴重な経験を活かして、次のFPSO受注を目指していきます。



66,000重量トン型ばら積み貨物運搬船
「CLIPPER EXCALIBUR」



浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備 (FPSO)